

SHIRAKOBATO

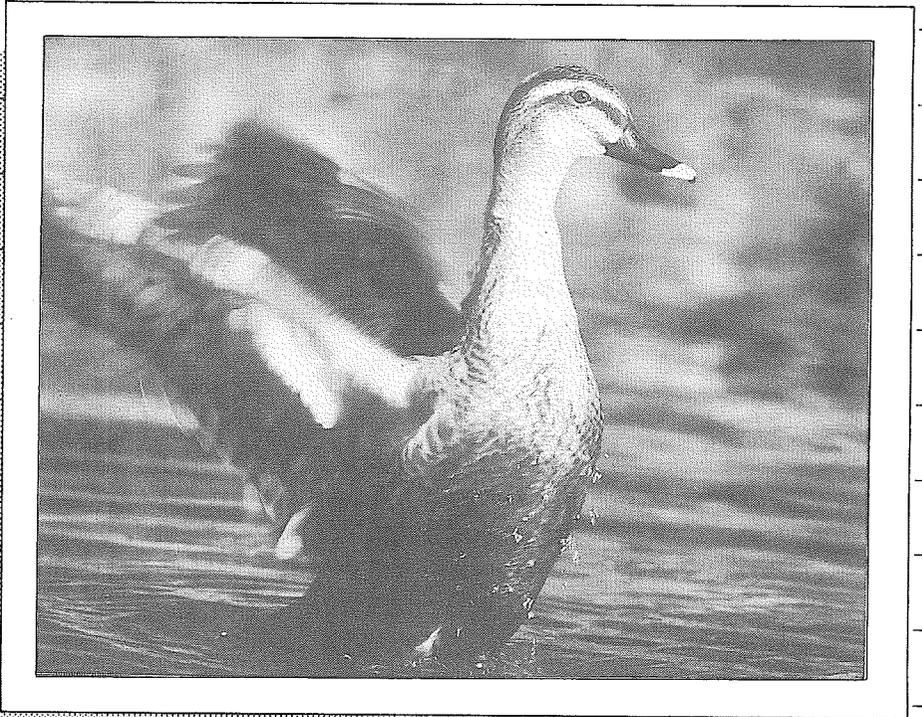
しらこぼと



1989. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 65

日本野鳥の会埼玉県支部

お気に入り軽井沢(小瀬より塩壺へ)

軽井沢のベストシーズン

軽井沢を知ったのは真冬の探鳥会に参加した時であったし、その後の訪問もほとんど寒い時期ばかりだったせいかな、避暑地としてのイメージは少しも湧いてこない。何事も経験とばかり、今年はずっと夏の軽井沢を訪れてみたが、その賑わいぶりを横目に見ながら軽井沢のよさはやはり静かな冬にあると再確認した。溢れるほどの自然は芽ぶきの春も紅葉の秋もきっと素晴らしいと思うが、何よりも浅間山の姿が際立って美しく見える冬こそベストシーズンだと思う。

数多くの文人達に愛された軽井沢はさすがに自然環境に優れており、探鳥会もこれまで何度となく行われてきたから、リーダーやベテランの方達の綿密な記録もあることだろう。今更私などの案内では何とも心もとないが、とりあえず山歩きで積りで出発してみよう。

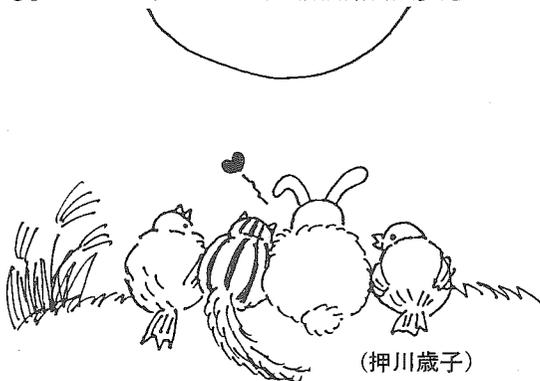
スタートは小瀬温泉

まず、基点を小瀬温泉にすれば終着点の塩壺温泉にかけてやや下りなので探鳥には楽である。三年前、横川から鼻曲山に登って軽井沢方面へと下ったが、長日向のバス停をいつの間にか通過してしまったおかげで見出したのがこの小さな温泉地であった。近くに「白糸の滝」や「竜返しの滝」がありひなびた雰囲気が入ってその後二度も泊りに来ている。そのパークホテル前の信濃路自然歩道か

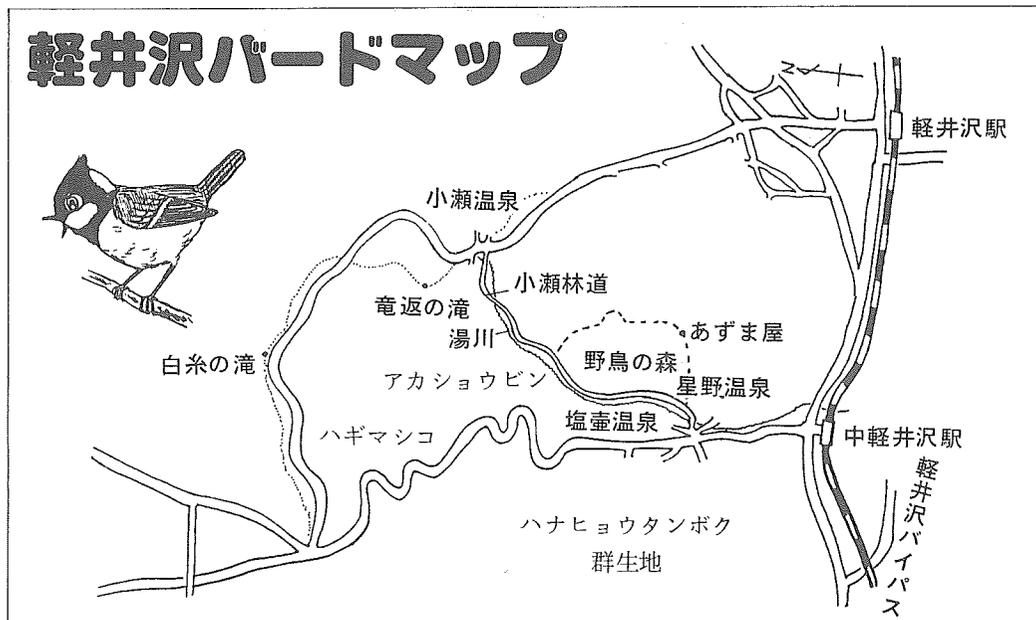
ら小瀬林道に飛び出すとあとは野鳥の森まで林道歩きである。しかしこれが結構楽しい。夏は木々の緑が深々と重なり合い、鳥の姿には恵まれなくとも十二分に目を心を和らげてくれるだろう。冬はノスリとの遭遇を信じて根気よく稜線を見つめていけば、まあ大ていは期待を裏切らないという話だがノスリと約束したわけではないからそれも運次第だ。傍らの清流は湯川。深く切れ落ちているところにカワガラスが来ないかと目を凝らす。石の間からひょっこりお出ましという幸運に出会うことを期待して見逃さないようにしよう。アカゲラ、アカハラ、アカショウビン、別にアカにこだわるわけではないが、こんな名の鳥達も探してみたい。アカショウビンといえば春の探鳥会で出現して、皆の注目とため息を集めたというから、一度は春から初夏にかけても新緑ウォッチングを兼ねて来た方がよいと思うし、さらにカラマツの黄葉を思い浮かべるとやはり一年中おすすめということになってしまう。

野鳥の森を歩く

野鳥の森入口で林道に別れを告げ左折、ここからは急坂もあるので凍てつく季節には注意して歩こう。野鳥観察舎のあるところまで緩やかに登ってその小屋にもぐりこみ、しばらく静かにしていればやがて鳥達がやってくる。ここでイカルを飽きるほど見たのも、アカゲラとアオゲラが仲良く明り取りの窓を彩ったのも冬、十二月だった。或る日の探鳥会ではこの少し先でオオマシコを発見し、スワットばかりプロミナーの放列が敷かれた。この辺りから急坂を一気に登ると、あずまやに突き当たる。坂道をあがって来たばかりなので一服するのに丁度よい。あとは道なりに少し下り気味に歩くと右手にもうひとつの観察舎があるが、これはバスして左折、だんだんか細くなっていく道をどんどん下って小広い場所に



軽井沢バードマップ



出る。ここは正月に訪れた時、静かに降り積む雪が夢のような世界を作り上げ、あまりの美しさにぼう然と立ちつくしてしまった場所である。野鳥の森入口（出口？）まではもう近いがこの途中でベニマシコやフクロウに出会ったのもやはり正月だった。何やら重そうな鳥がバタバタと飛んで来て数メートル奥の木に止まったと思ったらこれがフクロウで、ズシンとした存在感とユーモラスな表情に親しみを感じた。元の林道に出たところが逆コースの場合の野鳥の森入口である。中西悟堂さんの銅像を左に見て右折、星野温泉に向け橋を渡る。セキレイ、ミソサザイ、カワガラスなどを探したいところ。星野温泉前から塩壺温泉への裏道は清らかな小川に沿っており今日のハイライトと言えようか。

いよいよフィナーレ

この道をハイライトと思う理由は一度夜明け頃に歩いて、あまりにも沢山の鳥達に「お早う」と声をかけられ？たから。アトリ、イカル、ミソサザイ、ハギマシコ、コガラなど、種類も多かったが群れもすごかった。今日は小瀬林道から来たのでそんなことを期待するのは無理な話だが、その代り塩壺温泉での素晴らしいフィナーレが待っている。コーヒーを飲みながらホテルの窓越しに餌台の

鳥達を見るのもなかなか乙なものだ。居ながらにしてカワセミのダイビングを眺め、次のシーンでは餌台に集まるシジュウカラやコガラ達が楽しいハーモニーを聞かせてくれる。加えてリスまでがチョロチョロと現われて、エンディングを更に盛り上げてくれるかもしれないから、ゆっくりと余韻を味わってほしい。

信越本線と草軽バスで

交通機関はもう言うまでもないが上野駅、大宮駅などから信越本線を利用する。上野から特急でわずか2時間、軽井沢からは草軽バスで長日向まで20分、バス停から小瀬温泉までは歩いて20分くらいだ。このあとのコースタイムは流動的で、人により鳥の出方によって違うので2時間～3時間としておこう。

(松井昭子)



(押川歳子)

事業部から

(このページの値段はすべて消費税込みです)

野鳥細密画オリジナルパネル新発売

細密画の歴史は古く、おもにヨーロッパにおいて博物学の図譜として発達しました。その描写法は、あくまでも写実的で、自然の美をそのままに描くものです。

支部会員・鷹尾正済氏の描いたノゴマ・キビタキ・オオルリ・カワセミ・メジロが高級マットとアルミ額に納められました。

定 価 2,000円

会員価格 1,900円

おもに三室の定例探鳥会で販売します。ぜひ一度実物をご覧ください。

The Wild Bird Calendar 1990

写真の素晴らしさで毎年評判のカレンダー、1990年版は、メジロ・ライチョウ・ベニマシコなど13種が息づいています。

毎月変わるお部屋のインテリア。贈り物にも最適です。

定 価 1,100円

会員価格 990円

11月上旬ごろまでに発売予定

フィールドガイド日本の野鳥 増補版 いよいよ発売

長らくお待ちせしました。10月なかばに発売される運びとなりました。

日本で記録のある525種の野鳥を紹介した「フィールドガイド日本の野鳥」は、出版されてから6年たちました。その間に新たに記録された31種の野鳥について追加掲載したのがこの増補版です。名実ともに野鳥図鑑の決定版といえます。

追加イラストは、「山野の鳥」「水辺の鳥」でお馴染みの谷口高司さん。

現在まで日本で記録された野鳥については、この一冊ですべて身元が判明するという中身の濃さに加え、『ゴビズキンカモメの識別ポイント』や、『コウライアイサの飛翔図』等を、世界ではじめて正確に図説しました。

大きさの違うハードカバー（週刊誌大）とソフトカバー（従来と同サイズ）の2種類となり、用途にあわせてお選びいただけます。

ハードカバー 定価 4,800円

B5変形サイズ（週刊誌大）

見やすく美しい大きな図版の卓上版サイズ。羽毛のディテールまで再現。インドアバードウォッチングを楽しむ贈り物としても喜ばれます。書斎の図鑑として、また、大きな図版を利用して、探鳥会の鳥合せをするリーダーにもおすすめできます。

ソフトカバー 定価 3,300円

B6変形サイズ（従来版と同サイズ）

ペーパーバック装丁のソフトカバーは、価格とサイズもおさえて、フィールドガイドとしての機動性を高めました。ウエストポーチからさっと取り出して、片手でパラパラとページをめくる。フィールドでの心強い相棒です。

本部のバードショップ 第1日曜日オープン

本部のバードショップ（東京都渋谷区渋谷1-1-4青山フラワービル5階 電 03-406-7460）は、日曜日にも営業するようになりました。ただし、第1日曜日のみです。土曜日は従来どおり毎週営業していません。

営業時間（土曜日・第1日曜日とも）

午前11時30分～午後6時30分

それでも支部を通じてお求めください

本部のバードショップで売っているものは、すべて支部でも取り扱っています。もちろん本部と同じ値段です。支部を通じてご購入いただければ、その分支部財政がうるおいます。

本部のバードショップで見えてきて、支部事業部にご注文いただくというのは、無理でしょうかね。



夕涼み探鳥 with 花火

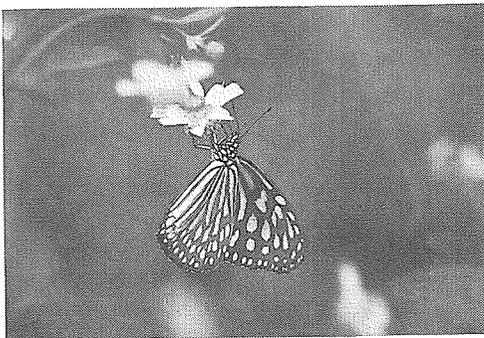
北川慎一（本庄市）

8月はバードウォッチングにあまりむかない時期ですが、それなりに楽しみ方もあります。照りつける日差しを避けて、夕方フィールドである利根川河原に出てみると、川面を渡る風は涼しいものです。

先日も、いつものように夕暮れ時、河原に行ってみると、鳥友のMさんも、いつものようにやってきました。2人で折りたたみのイスに腰かけながら、とりとめもない話をしていると、「キョンキョン」とアオアシギの声が風に乗って聞こえてきます。何とも切ないようなその声に秋を感じます。南に帰る前のツバメは何百と河原に集まり、軽やかに空中を舞い、サッと川面に体をつけ一瞬の水浴びをしています。

西の空が茜色に染まるころ、2千を超えるムクドリが群れをつくり「ねぐら」入りをします。その雄大さには思わず見とれてしまいます。

陽が落ち、星がまたたきはじめると、虫たちの合唱がはじまります。2人でビールと枝豆をとり出して、ささやかな宴を開きます。すると、対岸で打ち上げ花火がはじまりました。少し離れているため、人も少なく、のんびりゆく夏の余韻に浸ることができました。なんとなく風情のある探鳥でした。



リュウキュウアサギマダラ（登坂久雄）



某重大会議

タンチョウの異変

小荷田行男（浦和市）

1989年5月7日、北海道東部、風蓮湖のはぼ一周のコースでタンチョウの営巣状況を調査し、同年7月30日、同じコースでふたたび調査を実施した。5月は16羽の成鳥と6ヶ所の巣を、7月末は19羽の成鳥と2羽の幼鳥を確認した。

タンチョウは普通1年に一番いで2羽のヒナを生み1羽が冬をむかえる。私の観察より繁殖失敗の番いも含め、少なくとも冬のはじめに33%の生存率はあると思われる。6ヶ所の巣であるから12羽のヒナが生まれ、夏をむかえたのはたった2羽、17%の生存率である。もちろん見落としもあるだろうが、まだ夏の時点でのヒナの生存率17%は異常に低い。

根釧原野の湿原や湖沼を歩き始めて20年になる。昔、タンチョウの営巣地は人里や道路から遠く離れた湿原の中にあった。しかし、ここ5、6年、特に国道のような主要道路から100mも離れていないところに営巣しているのをよく見かけるようになった。

営巣地が人里や道路から離れていない所でも見られるようになったのは、湿原があいついで埋め立てられ牧草地となったからである。また、ミンク、キタキツネなどの幼鳥の天敵が増えている事も確かである。本年6月の低温のためもある。しかし、生後3ヶ月での生存率17%とは根釧原野のタンチョウの個体群になんらかの異常が起こりつつある前兆かもしれない。



ゴイサギ ◇8月29日、羽生市のムジナモ保護区で夕暮れ時に多数が乱舞する（見坊素子）。

アマサギ ◇8月29日、羽生市のさいたま水族館付近で50羽以上。白くなりかけや白いのもいました（見坊素子）。

オナガガモ ◇8月7日、戸田市道満でエクリップス羽の♂1羽（海老原美夫）。

シマアジ ◇8月20日、戸田市道満で1羽（駒崎政雄）。

ミサゴ ◇8月17日、本庄市の阪東大橋下流の入江の上空で1羽。初めは、スマートなのでカモメ類と見まちがいそうだったが、白い下面に黒の過眼線がはっきり確認できた（町田好一郎）。

オオタカ ◇7月15日、長瀨町の宝登山の枯木に1羽（山口輝雄）。◇8月31日、大利根町間口で幼鳥1羽（坪井 徹）。

サシバ ◇8月23日、戸田市道満で幼鳥1羽（高橋達也）。

トビ ◇8月20日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷上空で1羽（高橋達也）。

チョウゲンボウ ◇7月26日、熊谷市で幼鳥2羽巣立つ（山口輝雄）。◇8月7日、浦和市田島の荒川河川敷で♀1羽幼鳥2羽。少しはなれた所に♂1羽（海老原美夫）。◇8月29日、羽生市のさいたま水族館付近で1羽。突然現われて急降下。あっという間に飛び去る（見坊素子）。

ヒクイナ ◇8月9日、戸田市道満で2羽（高橋達也）。

タマシギ ◇8月29日、羽生市の埼玉水族館付近の釣堀そばの休耕田で♂1羽ひな1羽。肩の白線が鮮かだった。ひなは縞模様（見坊素子）。

イカルチドリ ◇8月17日、戸田市道満で5羽（駒崎政雄）。

ムナグロ ◇8月8日、本庄市の阪東大橋下流で夏羽1羽、中間羽2羽（町田好一郎）。◇8月14日、戸田市道満で85羽。8月20日、同所で154羽（駒崎政雄）。◇8月15日、

鴻巣市の荒川御成橋下の水田で13羽（中島康夫、郁夫）。◇8月29日、羽生市のさいたま水族館付近で冬羽3羽（見坊素子）。

トウネン ◇8月2日午後4時30分、本庄市の阪東大橋下流の干潟で1羽。完全な夏羽。お見事!!（町田好一郎）

ヒバリシギ ◇8月20日、戸田市道満で3羽。8月28日、同所で1羽（駒崎政雄）。

オジロトウネン ◇8月28日、戸田市道満で冬羽1羽（駒崎政雄）。

コアオアシシギ ◇8月17日、戸田市道満で2羽（駒崎政雄）。

アオアシシギ ◇8月15日、鴻巣市の荒川、御成橋下の水田で3羽（中島康夫、郁夫）。◇8月23日、戸田市道満の貯水池工事の干潟で7羽（高橋達也）。

クサシギ ◇8月7日、戸田市道満の荒川河川敷で4羽（海老原美夫）。◇8月23日、戸田市道満の貯水池工事の干潟で1羽（高橋達也）。

タカブシギ ◇8月4日午後5時、本庄市の阪東大橋下流で5羽。スーッと舞い降りてすぐそろって飛び去る（町田好一郎）。◇8月7日、戸田市道満で1羽（海老原美夫）。8月23日、同所で1羽（高橋達也）。

キアシシギ ◇8月13日午前9時30分、狭山市の入間川、広瀬橋上流で2羽（三田長久）。

ソリハシシギ ◇8月10日午後6時30分、本庄市の阪東大橋下流で1羽。おしりをふりふり何やらつぶんでいた。上に曲ったくちばしが良く確認できた（町田好一郎）。

アカエリヒレアシシギ ◇8月20日、戸田市道満で冬羽1羽（駒崎政雄）。

セイタカシギ ◇8月20日、戸田市道満で若鳥1羽（駒崎政雄及び見坊素子）。8月23日、同所で同じく1羽（高橋達也）。

シラコバト ◇8月10日午後12時30分、志木市柏町6丁目の民家の屋根で枝をくわえて飛びまわる。営巢の可能性があると思われる（田中富男）。

アオバト ◇7月10日、大滝村三峰神社で8羽（山口輝雄、博）。

アオバズク ◇8月1日、長瀨町の長瀨神社の森で親鳥2羽、幼鳥3羽（山口輝雄、博）。

◇8月31日午後6時40分～7時30分、大宮市三橋2丁目で幼鳥と思われる個体2羽が街路灯に集まる昆虫を捕食する。腹部の鹿子模様及び風切羽の一部に羽毛が残っていることより幼鳥と思われる(金井祐二、中尾房子)。

カワセミ ◇8月13日午後1時、坂戸市の高麗川、城山橋付近で幼鳥1羽。お気に入りの枝らしく、こちらの存在を気にもとめずにあくび?しながら羽づくろいしたり、上方をキョロキョロしていた。ペリットを1回はく。向こうは木蔭で涼しいのだろうが日照りで暑苦しい。こちらは、飛び立つまで50分間がまんくらべなり(岩崎雄二)。

ショウドウツバメ ◇8月28日、戸田市道満で2羽(駒崎政雄)。

【10月のみどころ】

街角に秋風の立つ頃、そろそろ冬鳥が渡ってきます。カモ類の他にジョウビタキ、カシラダカ、シメなどの小鳥たち。多くの小鳥は外敵の少ない夜に渡ってきますので、ある朝、目覚めたら来ていたということになります。

さて、今年の初認日はいつもの年と比べてどうでしょうか。また北の国からやってくる鳥たちとともに山の方で繁殖した小鳥も平地におりてきます。いわゆる漂鳥です。アオジやアカハラ、キクイタダキなども身近で見られるようになります。これからの季節は樹々は葉を落して見通しが良くなりますので、動きの早い小鳥たちを観察するには最適となります。夏鳥は声はすれども姿は見えずで、少々欲求不満気味になりますが、これからは、大丈夫です。

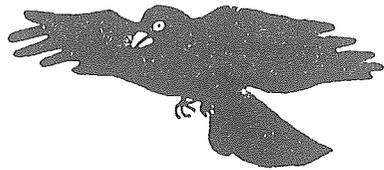
表紙の写真

モズ ◇7月27日、熊谷市大麻生河原で高鳴き(諏訪隆久)。

キビタキ ◇7月10日、大滝村三峰神社で1羽(山口輝雄、博)。

センダイムシクイ ◇8月23日、戸田市の戸田公園で1羽(高橋達也)。

ムクドリ ◇8月17日、本庄市の阪東大橋下流の鉄塔近辺で約2千羽。二つのグループ(1500羽と500羽)がクロスしたり、離れたりしながら、最後は落ちるように「ねぐら」の林に消える(林 滋、町田好一郎)。



さて、秋の渡りといえば、やはりサシバでしょうか。県内でも、寄居町の鐘撞堂山、飯能市の天覧山、狭山丘陵西部の六道山公園展望塔、日高町の高指無線山などで観察できます。澄みきった青空の中、サシバの群れが旋回しながら高度をとり南へ渡って行く様子は、バードウォッチャーならずとも胸の高鳴りをおぼえることと思います。サシバとともに渡って行く他のタカ…ハチクマ、オオタカ、ハイタカなどを探すのも楽しみなものです。タカの渡りを見る際は双眼鏡は必需品です。肉眼では見えなくても双眼鏡の視野には数多くのタカが写っていることがよくあります。余裕のある方は伊良湖岬に行ってみるのもいいかと思えます。ずっとスケールの大きい渡りに出会えます。タカ以外のヒヨドリなどの小鳥たちの渡りもけなげで感動ものです。但し天候に左右されますので御注意を。

(藤原寛治)

バードフォトコンテスト入選作

カルガモ (ガンカモ科)

天気の良い秋の一日、近所の水辺にカメラを据えてすわりこんだ。お弁当持って、飲み物持って。

前にカルガモの羽ばたきシーンを写したときは、ピントがイマイチだった。今度は水滴

までも鮮明に写したいものだと、パチリ、パチリ。

今日もさんざんフィルムを無駄にして、うん、こんなもんかなあ。

(写真と文・海老原美夫=浦和市)

行事あんない



熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月8日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：00発→大麻生9：10着／秩父鉄道寄居8：52発→大麻生9：10着

解散：午後1時ごろ

担当：諏訪隆久、林滋、岡安征也、町田好一郎、小淵健二

見どころ：秋をつれてノビタキの群。もうすっかり冬羽に変わったノビタキが、色づき始めた川原に見え隠れ。

北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：10月10日（火・祝）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：東北本線大宮8：12発→栗橋8：41着、東武日光線乗り換え8：55発→柳生9：04着

解散：午後1時ごろ

担当：中島康夫、石川敏男

見どころ：広大な芦原に息づく野鳥の姿。旅の途中の小鳥や、天翔けるアマツバメ。遊水池にはカモの姿も見られます。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月15日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田実、手塚正義

見どころ：モズの声に、身近な秋を実感。まだ冷たい朝の空気を切り裂いて、鋭いモズの声が響き渡ります。

荒川村・日野溪谷探鳥会

期日：10月22日（日）

集合：午前10時 秩父鉄道武州日野駅前

交通：秩父鉄道熊谷8：25発（入線8:11）→武州日野9：46着／所沢8：19発快速急行（秩父鉄道直通）→西武秩父9：38→武州日野9：54着

解散：午後2時ごろ

担当：林滋、海老原美夫、福井恒人

見どころ：溪谷美の中に鳥影を求めて。落葉の降り敷く小径をたどって、山里の秋を満喫。

栃木県・奥日光探鳥会

期日：10月24日（火）

集合：午前6時50分 大宮駅東武線改札口前 または、午前7時35分 春日部駅日光方面行きホーム最前部

交通：東武鉄道快速（浅草7：10発→春日部7：42→東武日光9：13着）、および東武バス利用。切符は「日光フリーパス」がお得です。

帰路：東武鉄道春日部19：20着利用予定

担当：中島康夫

見どころ：静かに、高層湿原の秋。観光シーズンたけなわの奥日光。休日の雑踏は避けて、平日にそっと訪ねてみてはどうでしょう。

注意：防寒具もお忘れなく。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月28日（土） 午後1時～3時ごろ

会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間を入れて進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンションの1階＝徒歩約5分＝住所は12ページ下欄のとおり）

案内：今あなたが読んでいる『しらこぼと』は、ボランティアの手により封入され、発送されたものです。今月はあなたも袋づめの会に参加してみませんか。

野鳥写真クラブ定例会

とき：10月28日（土） 午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：支部会員なら誰でもクラブのメンバーです。スライドを見たり見せたり、参考になることも多いですよ。

東京都・東京港野鳥公園探鳥会

期日：10月29日（日）

集合：午前9時 JR品川駅港南口

（その後現地までバス、160円）

解散：午後1時ごろ 入園料：200円

担当：横山みどり、草間和子、諏訪隆久

見どころ：生まれ変わった大井野鳥公園。ぐっと広く美しくなって、つい先日オープン。園内の池では、カモやカモメなど、北の国からの御客様をはじめ、さまざまな水鳥が見られます。新公園ウォッチングも楽しみです。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日（金・祝）

集合：午前7時20分 丸山公園北口駐車場

交通：高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から上尾車庫行き7:03発→終点下車

解散：午前9時ごろ

担当：乗田実、赤瀬征雄

見どころ：二度目の早朝探鳥会。冬の始まりキャッチしに、少し早起きしませんか。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日（金・祝）

集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前

交通：武蔵野線南越谷8:15発→南浦和8:26→北朝霞8:36着、東武東上線乗り換え、朝霞台8:49発→柳瀬川8:54着 / 東武東上線東松山8:17発→川越8:43→柳瀬川8:57着

解散：午後1時ごろ

担当：藤原寛治、黒田佳子

見どころ：刈田に遊ぶタゲリの群。黒と白の翼にミュージーミュージーという声。特徴ある彼らが今年もやって来ました。

11月5日（日）	蓮田市・黒浜沼探鳥会
同日	吉見町・吉見百穴探鳥会
11月12日（日）	熊谷市・大麻生探鳥会
11月19日（日）	浦和市・三室地区探鳥会
11月23日（木・祝）	桶川市・川田谷探鳥会
11月25日（土）	栃木県・奥日光探鳥会
11月26日（日）	本庄市・阪東大橋探鳥会
同日	坂戸市・高麗川探鳥会

宮城県・伊豆沼探鳥会（予約募集中）

期日：11月10日（金）夜行～12日（日）夜

集合：10日午後11時 大宮駅東口

費用：24,000円ぐらいの予定（バス代、宿泊費、昼食代、保険料など）。

定員：20名程度（先着順、支部会員優先）

最少催行人員：15名（人数が15名に満たない場合は中止となります）

申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を書いて北川慎一（〒367本庄市銀座 ）まで。

担当：北川慎一、草間和子、榎本秀和、中島康夫

見どころ：ときめきのバスツアー第2弾。マガンの越冬地として有名な伊豆沼へ、バスを借り切った探鳥旅行。

行事報告

7月2日(日) 三芳町 多福寺

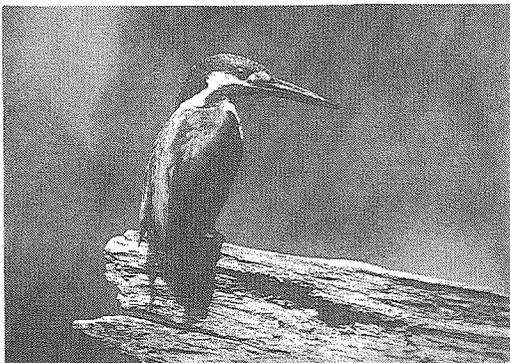
人 35人 天気 曇 鳥 カルガモ コジュケイ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシブトガラス(18種) 昨年まで営巣していた雑木林が伐採され、残念ながら、また一つサンコウチョウの生息地が失われた。追われたサンコウチョウは行方不明。どこか近くで営巣場所を見つけてくれていればいいのだが。

7月29日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、小淵健二、角田真喜子、河辺達郎、神場真文、草間和子、楠見文子、下川礼子、鈴木秀男、鈴木美恵子、田口浩司、中村治、藤野富代、宮坂亨、村上由香、渡辺喜八郎、渡辺孝章(19人)

7月29日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 23人 作品発表した人 7人



カワセミ (海老原美夫・浦和市)

8月13日(日) 熊谷市 大麻生

人 47人 天気 晴 鳥 ダイサギ カルガモ トビ ハイタカ コジュケイ イソシギ

キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシブトガラス(23種) 真夏の太陽をバックにハイタカ。入道雲を上って行くように滑空するトビ。(鳥合わせ後で残念だが) 河原の上でホバリングするチョウゲンボウ。今年の夏のトレンドは猛禽となり、参加者は大麻生を再認識した。3週間ぶりの探鳥会で、鳥は少ないと分かっているにもかかわらず沢山の人が集まってくれた。ごほうびにコムクドリを確認できた。この日、熊谷は34度。しかし、いくら暑くても季節は変わり始めている。

8月19~20日(土、日) 大滝村 親子キャンプ教室 人 46人 天気 少し雨に降られたが、大体晴

私たち親子3人で参加しました。

19日正午、秩父鉄道三峰口集合。SLに乗ってきた人もいました。車で大滝村槌打キャンプ場まで移動して、にぎやかにイベントが始まり、巣箱作りなどの楽しい午後でした。

お待ちかねの夕御飯。今井さんご自慢のカレーライスでおなか一杯。夜はスライドによる鳥当てクイズや花火大会。

バンガローでの一夜が明けると、早朝探鳥会。アオゲラ、コゲラや、リスの姿も。超ベテランの先生による植物観察など、中身の濃いイベントでした。

講談社の方が、取材のために、親子で参加。10月の週刊現代に特集されるそうです。

秩父愛鳥会の皆様、お世話になりました。

林滋・秋絵・千春(美里町)

8月20日(日) 浦和市 三室地区

人 46人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサ

ギ カルガモ コジュケイ バン イソシギ
シラコバト キジバト コゲラ ヒバリ ツ
バメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセ
キレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウ
カラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コム
クドリ ムクドリ オナガ ハンボソガラス
ハンブトガラス (26種) 芝川が増水していた
のでシギ類はちょっぴりだったが、学校橋付
近ではバンが川を往復し、上新宿橋ではバン
の巣と番が見られて歓声が上がった。鳥以外
にも、花や虫などいろいろ楽しんだ。

8月27日(日)千葉県習志野市 谷津干潟

台風17号の接近で風雨が強い中、埼玉県から
は4人、全部で17人位が集まったけれども、
残念ながら探鳥会は中止。

傘をさしながら各支部の近況について立ち
話をしたあと、名物アサリ汁用に用意したア
サリを分けあって解散。持ち帰ったアサリは
大変おいしかったです。千葉県支部の皆さん
いつもお世話になっております。

翌日は、台風一過でスカッと青空。キャ
シーナァー。

■■■■■■■■■■ [個人的きまま野鳥記 6] アカショウビン ■■■■■■■■■■

電車とバスを乗り継いで2時間半、溪谷ぞ
いの湿った緑の積み重なりの中にかアカショ
ウビンがいた。

巣穴のなかからはひなの声が聞こえる。少
なくとも3羽以上いるようだ。親は交代で餌
はこびにいそがしい。

間近で見るアカショウビンは、思いがけず
きびしい目つきをしている。

それはそうだな、ただバードウォッチャー
のあこがれというだけでなく、彼らも当然
必死の生活者なのだから。

遠くからあこがれていた佳人の、思いがけ
なく普通の人間としての一面を見たようで、
だからよけいにはれてしまった。

アカショウビンの色は、決して単純な赤で
はない。上面はかなり紫色に近いし、腹のほ
うは黄褐色から白い部分も。

それが緑を背景にたたずむとき、そしてほ
のおとなって飛翔するとき、その対比の鮮や

8月27日(日) 嵐山町 菅谷館跡

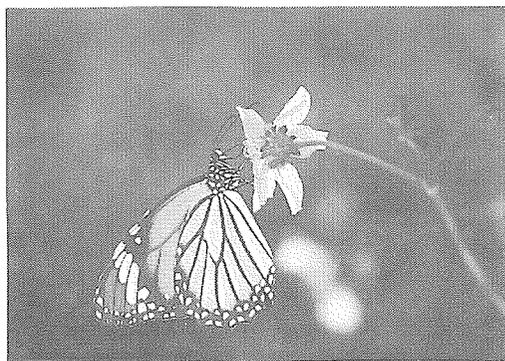
雨天のため中止。

8月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

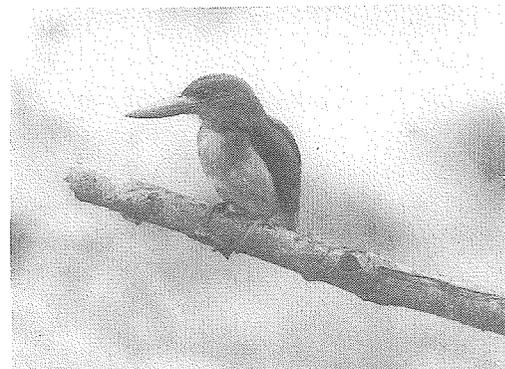
がんばってくれた人 伊藤芳晴、岩波勇一、
海老原教子、海老原美夫、神場真文、北川慎
一、楠見邦博、楠見文子、鈴木秀男、登坂久
雄、中村治、野中康治、林滋、藤野富代、吉
田二三子、渡辺敦、渡辺孝章 (17人)

8月26日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 18人 作品発表した人 6人



スジグロカバマダラ (登坂久雄・八王子市)



かさには思わず息をのまずにはいられない。

木陰の光量不足を承知のうえでおどかさな
いようにストロボも使わず、レンズを巣穴に
も向けず、ひとやすみする彼らにそっとシャ
ッターを切った。

数日後、そのひなたちが無事に巣立った。
夏休みに入って子供たちの歓声が響きはじめ
た溪谷が、逆に急に静かになったようだ。

(五条壇武男)



会員制度のご案内

正会員 本部の『野鳥』誌と支部報『しらこぼと』の両方が毎月届きます。

入会金 500円 年会費 6,000円

普通会員 『しらこぼと』だけが届きます。

入会金 500円 年会費 2,500円

支部賛助会員 正会員と同じですが、特に支部を援助していただきます。本部の登録では正会員としての扱いになります。

入会金 500円 年会費 14,000円

家族会員 『野鳥』や『しらこぼと』は正会員などに届くものをごらんください。

入会金なし 年会費 500円

ジュニア会員 支部独自の、中学生以下だけが入れる特典の制度です。『しらこぼと』だけが届きます。本部会員としては登録されません。入会金なし 年会費 1,000円
『野鳥』誌も読みたい人や本部会員として登録したい人は、正会員または普通会員として入会してください。また、高校生以上になったときは、あらためて正会員または普通会員として(入会金も払って)入会手続をしてください。

くわしくは支部事務局にお問い合わせください。パンフレットをお送りします。

会費の自動引落し制度、複数支部入会などについては、本部の入会係 ☎ 03 (406) 7289 へお問い合わせください。

正会員・普通会員・家族会員の入会手続送金先=東京 4 - 98389 (財) 日本野鳥の会。
ジュニア会員=東京 9 - 121130 日本野鳥の会埼玉県支部。

会員数は

9月20日現在 1,119人です。

10月の土曜当番 (午後2時～6時)

- 10月7日(土) 岡安征也、町田好一郎
- 10月14日(土) 諏訪隆久、山部直喜
- 10月21日(土) 黒田佳子、福井恒人
- 10月28日(土) 袋づめの会(1時から)
- 11月4日(土) 草間和子、楠見文子

場所は、行事あないページ袋づめの会の会場説明のとおりです。ちょっと遊びにおよりください。

活動報告

- 8月20日 普及部会議、編集部会議、事業部会議。
- 8月20日 役員会議(司会:町田好一郎、前回役員会報告の確認、各部の報告、10~11月の探鳥会予定、関東ブロック協議会について、10月の土曜当番、その他)。
- 8月21日 『しらこぼと』9月号校正(大武昭雄、西城戸司)。
- 8月25日 野鳥とふれあう学校連絡会議へ出席(海老原)。
- 8月25日 秩父愛鳥会の宮崎章次会長が事務局へ来訪。
- 9月2日 リーダー研修会資料準備。



1988年夏と同じく1989年夏も台風が発生する熱帯収束帯が緯度で5度北上し、わがフィールドである北海道の根釧原野では去年の冷夏、今年の猛暑と2年連続の狂った夏となった。花の開花、鳥の繁殖など大きく変調をきたしている。

気候が移り変わる時、花や鳥を注意深く観察し、われわれ自身の暮らしを変えて行かなければならない。
(小荷田行男)

『しらこぼと』1989年10月号(第65号) 定価 100円(会費に含まれます)
 発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
 印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)